



1. スレートぶきの熊谷弓彦邸の門。

宮城県 登米の粘板岩

「登米」と書いて「とよま」と読むことは、登米粘板岩があるために地質家にはよく知られている。今より800年前、葛西氏が寺池に築城して400年の歴史をきずき、その後、伊達一門の城下町として明治維新まで300年にわたり、その後は北上川を利用した舟運で、町は栄えた。登米には付近で採掘される粘板岩と白壁で作られた豊かな歴史がある(写真1)。

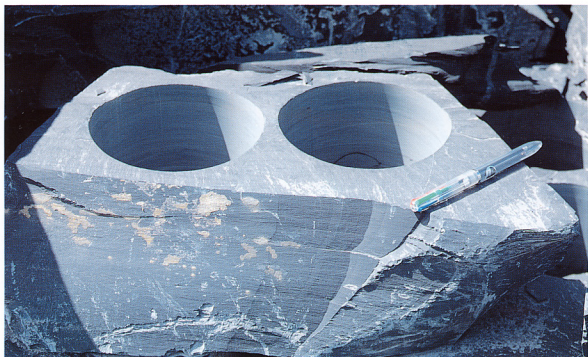
粘板岩は付近一帯に分布するが、屋根材などに製品化されるものは厚さ2mの地層から坑内掘り得

られているにすぎない(写真4)。原石は一般にはダイヤモンドカッターで切断され(写真5)、スレート劈開面にのみを当てる手割り(写真2)で角板に仕上げられる。また目的によっては丸くボーリング機でくり抜かれる(写真3)。

登米粘板岩は現在、玄呂石と名付けられ、屋根材、床材、壁材のほか、花瓶、時計などにも加工されて、広く利用されている(写真2-5は東北天然スレート工業㈱作業場で撮影)。(工業技術院 石原舜三)



2. 切断後の薄板にする手割り作業。



3. 円板作製のためのくり抜き、黄色は黄鉄鉱。



4. 採掘、搬出された原石。



5. カッターによる原石切断。



6. 登米粘板岩は骨材としても広く用いられており、その採石場はここに示す様に雄大である。